

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100877		
法人名	社会福祉法人生き生き館		
事業所名	グループホームケアポート生き生き館原尾島		
所在地	岡山市中区東川原361-1		
自己評価作成日	平成25年12月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成26年1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「心の通うづくり」を理念に掲げ、「入浴」「食事」「生活リハビリ」を生活支援を三本柱として入居者様に合わせたリズムで生活して頂いています。
 当事業所は地域密着型複合施設内にあり、特別養護老人ホーム、小規模多機能ホーム、ショートステイが併設しています。さらに岡山市内には当グループが運営するデイサービス、ヘルパーステーション、居宅支援事業等のサービス事業所があり、多種多様の福祉サービスの提供が可能である為、各々の利点を活かし利用者様の個別のニーズに合わせたサービスを適切に提供できるよう取り組んでいます。グループホームでは、家庭的な雰囲気の中でレクリエーションや体操への参加をして頂き、楽しく健康に生活して頂けるよう職員一同、日々取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は建物の4階部分にあり、市街地が見渡せ、天気の良い日は周辺を散歩したり、又所内では歌いながら体操をすることを日課として楽しんでいます。家族とのつながりと個別の介護を大切にした支援に取り組み、入居者一人ひとりの洗剤で洗濯し浴槽の湯・タオル・マットなどを入居者ごとに交換するなど、丁寧な対応をこころがけている様子がうかがえます。又、近くの小学校との相互交流や会議・防災・安全対策など地域との関わりを目指して取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心の通う人づくり」を理念として掲げ、職員全員が周知できるよう、申し送り時に全員で唱和を行ってから、業務に取り組むようにしています。	法人の理念(気配り 目配り 手配り 孫の手介護)を基本に、朝礼時に全員で唱和し、共有と実践に努めています。	法人の理念の下、地域密着型サービスの意義をふまえ、事業所独自の理念を掲げ、スタッフ間で共有し、実践につなげていかれることを期待しています。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を開催し地域の方と交流し意見を頂いています。また、近隣の小学校児童との相互交流(音楽会への参加・行事への招待)を行っています。	すぐ近くの小学校との行き来、運営推進会議での話し合い、町内会への参加、防災・安全対策などを通じて、地域の一員として情報発信しながら交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成24年度までは介護教室を実施していたが、諸事情により現在は実施できていない。運営推進会議にて必要があれば「出前講座」を実施できるよう、体制を整えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の状況や地域情報等の交流を通じて、職員間で周知を行い、地域からの意見や要望等が介護サービスに活かせるよう努めています。	町内会長・老人会・地域包括支援センター・小学校長などの参加を得て、2ヶ月に一回開催し、状況報告や話し合いを行い、サービス向上に活用しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	岡山市や県からの情報は速やかに回覧にて職員に周知させ、わからない事柄についてはその都度、相談し指導を受けています。	複合型の福祉施設としての役割もあり、地域交流ホールの活用を要請されており、わからないことは電話で問い合わせるなど、協力関係を築くように努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を併設の施設と合同で行っている。また、身体拘束が必要な場合には家族の同意を得て実施し、2週間ごとにカンファレンスを行い検討することになっている。	マニュアル、定期的な研修、身体拘束の具体的な行為についての資料などを通じて、スタッフ全員で正しく理解し、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルの周知や研修への参加を行い、意識の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を実施し、理解を深め活用できるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書、重要事項説明書を十分に説明し、同意を得てから入居いただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を通じて全体の意見を頂いています。また、来館時に意見や要望を伺い、ケアやサービスに活かしています。職員間には連絡帳にて周知し、場合によっては会議を開催し運営に反映しています。	家族会・面会・電話・日頃の対話など機会を捉えて聞くとともに、観察による発見・気づき・連絡帳などを参考に、スタッフ間で話し合い、入居者、家族等の意見や要望を反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	起案書で提案するほかに、代表や管理者が出席する職員会議を開催し、意見や要望の集約を行い、反映しています。	申し送り時に話したり、シスター制度で相談助言ができる仕組みがあり、リーダーやサブリーダーは意見をまとめ、毎月の会議(代表者や管理者参加)に提案し、反映しています。	法人全体としての取り組みの他に事業所の日頃の気付きや提案を話し合い、独自の体制づくりに努め、運営に反映される事を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員に役割分担を行い責任を持って仕事をすることでやりがいにつなげています。職場環境については職員会議等を通じて改善に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は毎月開催を目標に実施しており、外部研修は案内を職員に行い参加の機会を設けています。新人職員にはシスター制度を設け、研修日誌等を通じきめ細やかな相談を受けられ不安なく業務が行えるような体制づくりをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	専門職は、各専門職会議に参加し、情報把握に努めるほか、各種会議に出席し相互交流を通じて介護の質の向上を目指しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族に自宅での様子や困っていること等を聞き、ご本人とのコミュニケーションを積極的に行うよう心掛けています。また、十分な観察と声かけを行い、寄り添う介護を通じて安心して生活できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に現在困っていることや要望等を聞き、入居後はご利用者の状況を伝え関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の思いを受け止め、ご利用者にとってより良いサービスが提供できるよう、状況把握を行い必要であるサービスの見極めを行い、サービスにつなげています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能の把握を行い、食事の盛り付けや洗濯物たたみ、テーブル拭きには積極的に参加して頂き、役割をもって生き活きと生活できるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来館時や消耗品の依頼時に口頭や文章で日々の様子を伝え、関係づくりに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来館時には、ゆっくりと話が出来るよう場所の提供をしています。	友人の来訪や家族との外出など、馴染みの人や場所との関係が継続できるように支援しています。今年はお花見のついでにショッピングセンターに行く企画も考えているそうです。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事と水分補給、おやつは一緒にホールにてとっていただいています。体操やレクエーション、食事の盛り付けや洗濯物たたみなどを通じて、会話ができるような雰囲気づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族からの相談があれば対応させていただきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン作成時には、ご利用者やご家族の意向を把握するよう努めている。意向を聞くことが困難なご利用者に対しては、ご家族からの情報を基に検討している。	家族からの聞き取り、本人との対話や観察、スタッフの気付き、連絡帳や日誌などを参考に、アセスメントをくり返し、思いや意向が反映できるように検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご利用者やご家族から生活歴や生活環境等の情報収集を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の状況や日々のケアを通じて一人ひとりの心身状態や能力の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員が中心となり、担当者会議を開催し、実現可能な計画書の作成に努めています。	毎月モニタリングを実施し、本人・家族・医療など関係者の意見やアイデアを反映し、カンファレンスを行い、できることを見極め、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の訴え、観察、判断、結果・対応に分けて記録を行っています。朝夕に申し送りを行いご利用者の状況について情報共有を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の状況に合わせて、ご家族と相談しながら柔軟なケアが出来るよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	世代間交流として、近くの小学校との交流を行っています。また、イベントへの参加や行事を開催することを検討しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回かかりつけ医に往診をしていただき健康管理に努めています。職員から日々の様子や体調不良時の様子を伝え、適切な医療が受けられるよう支援させていただいています。	かかりつけ医の月2回の訪問診療と緊急時の搬送や電話など常時対応ができ、所属の看護師のバックアップもあり、家族の協力を得ながら、適切な医療を受けられるように支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日々の気付きの中で異変を発見した場合には、速やかに看護職員に伝え、適切な指示を受けてます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には急変時の様子や今までの生活の様子の情報提供を行い、退院時には病院からの情報提供を受け、事前に状況把握に行き、病院関係者との関係づくりに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前にご家族や医師と相談し対応しています。終末期に向けたケアについては、現在のところ該当者はいませんが、検討していきます。	現在のところ該当者はおられませんが、今後の検討課題となっているようです。併設の特別養護老人ホームでは、重度化や終末期の対応がされており、学べる環境が整っています。	望む形で終末期を迎えられるように、家族や関係機関と連携をとりながら、チームで支援していかれることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故に備えて、日頃から対応できるよう研修を行っています。特に、初期対応については、状況把握をし看護師と相談しながら対応しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難路について職員に周知し、避難訓練と防災訓練を行いました。また、今年度は救命士を講師に招き心肺蘇生術90分コースを受け、AEDの理解と使用方法について学びました。地域との協力体制を進めています。	事業所は建物の4階部分にあり、河川の氾濫時には、地域の避難や必需品の備蓄場所として活用できます。今年度、近くの消防署に派遣依頼をしており、地域の方を含めての訓練に発展できればと考えています。	災害の種類や時間帯、避難方法、備蓄など地域や関係者と話し合いながら対策に取り組まれる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護マニュアルを作成しており、一人ひとりの人格を尊重したケアに努めています。	人生の先輩として尊重し、認知症の理解に努め、一人ひとりに向き合い、声かけを工夫し、ゆったりとした穏やかな対応をこころがけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の思いを聞くことは難しいこともありますが、食事やレクでの様子を通して思いを把握し、選択肢を設けて選ぶことで意思決定が出来るような状況を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課を決めて過ごしていただいておりますが、出来るだけご利用者のペースに合わせ希望に添って支援できるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床介助時に着たい衣服を選んだり、入浴後に化粧水をつける等の支援ができるよう努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食事ができるようテーブルの配置を工夫し、食事の準備を一緒に行っています。食レクを行いご利用者の楽しみの時間を作っています。	栄養士の献立をもとに、建物内の施設でまとめて調理しており、配膳や片付けなどを入居者と一緒に行っています。又、今年も食を楽しむ(食レク)取り組みが計画されているようです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により管理された献立で食事を提供しています。また、水分補給は一日を通じて確保できるよう対応しています。一日の水分量と食事量は記録を取り、健康管理をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と就寝時に口腔ケアを行っています。また、義歯の方には、就寝前に義歯洗浄を行い清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導が必要なご利用者に対しては、本人の排便パターンに合わせて時間を決め必要に応じて介助を行っています。	排泄パターンを把握して、さりげなく声掛けし、日中はできるだけトイレでの排泄をこころがけ、自立に向けて支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便の有無を確認し記録しています。平常時の排便状況を基に水分補給や腹部マッサージを実施し、他職種(医師、看護師、栄養士)との連携を図り、便秘をしないよう努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に3回を目標に取り組んでおり、ゆっくりと入浴できるよう個別に対応しています。入浴拒否のあるご利用者に対しては時間を置き介護者を変える等の工夫を行っています。	広めのユニットバスは暖房設備が整い、一人ひとり湯を入れ替え、マットやタオルを交換し、清潔が保たれるように配慮されています。週3回を目安としていますが、気分や体調により柔軟な対応をこころがけています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はほとんどホールにて過ごされることが多いですが、居室に戻られ休息されることもあります。リネンの交換は週1回行い、清潔な環境で安眠できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルを作成し、確認をしっかりと行いながら、事故の無いよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	配膳下膳時はホールと厨房間を職員が付き添いカートの移動を一緒に行っています。また、食事の盛り付けや洗濯物たたみ、テーブル拭き等をしていただき役割を持って生活できるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所の前に河川敷や道路があり、窓から外の様子を眺めては話をされることがあります。歩行が安定しているご利用者に対しては施設周辺を見守りにて散歩されたり、小学校に出向き音楽会に参加しました。	天気の良い日は周辺を散歩したり、各種行事で1階の交流スペースを利用しています。近くの小学校に出かけたり、家族の協力を得ながら外出できるように支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は持って来られないよう入居時に説明しており、お金を使用できる環境ではありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話をかけ話をしています。手紙を書いて欲しいとの希望は少ないですが、遠方におられるご家族からの手紙が届くと喜ばれるので、返事を書いてはどうかと声かけをさせていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、居室の環境整備を行い、また、フロアについてはハイター消毒を行っています。居室とフロアは日中に換気を行い、夜間には温度と湿度の管理を行っています。また、季節を感じれるよう壁の掲示物に工夫をしています。	リビングは広く、加湿器が置かれ、観葉植物や作品が展示され、畳コーナーもあり、肘掛け椅子やテーブルの配置を工夫し、居心地よく過ごせるよう配慮されています。面会時にくつろげる部屋が用意され、トイレ・風呂を含め全体に掃除が行き届き清潔感があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには大型テレビとビデオを配置し、映像や音楽を楽しんでいただけるようにしています。また、隣接した畳スペースには座って過ごすことも出来ます。テーブルの位置を工夫することで楽しく過ごしていただけるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の備品であるベッドとカーテン以外は、持ち込みしていただいています。使い慣れた家具を持参され自宅と同じ雰囲気でご安心して過ごされています。	居室は明るく広々としており、手洗いの設備があり、畳を敷いて利用している方もおられ、好みのものを持ち込んで配置し、居心地よく過ごせるように工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターは安全の為、ご利用者一人では使用できないように工夫しています。また、階段の使用についても同様です。ユニット間は行き来ができるような構造となっており、安全に他者交流や身体機能の維持、気分転換が図れるよう支援しています。		